

職場における熱中症の発生状況(茨城県内)

熱中症の発生状況(休業4日以上の労働災害)

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	計
発生件数		9	(3) 12	(1) 30	13	10	(1) 11	27	(1) 26	21	(1) 13	(7) 172
年齢別	～19歳	2		2			1	2				7
	20～29歳	1	(1) 1	7	2	3	3	2	3	2	1	(1) 25
	30～39歳	2	(1) 3	4	2		3	5	4	5	2	(1) 30
	40～49歳	2	(1) 3	7	1	3	1	4	4	8	4	(1) 37
	50～59歳	2		5 (1) 5	6	2		7	8	4	3	(1) 42
	60歳～			5	2	2 (1) 3	7	(1) 7	2	(1) 3	(3) 31	
業種別	製造業	2		3 8	4	4	3	8	7	5	1	45
	建設業	3	(2) 4	(1) 9	5	4	(1) 2	3	4	4	2	(4) 40
	運送業	1		3	2		2	6	4	3	5	26
	警備業				1	1		2	3	1		8
	ゴルフ場	1		1 2			1	1 (1) 3	1			(1) 10
	その他	2	(1) 4	8	1	1	3	7	5	7	(1) 5	(2) 43
性別	男	9	(3) 9	(1) 24	13	8	(1) 8	24	(1) 20	17	(1) 11	(7) 143
	女			3 6		2	3	3	6	4	2	29

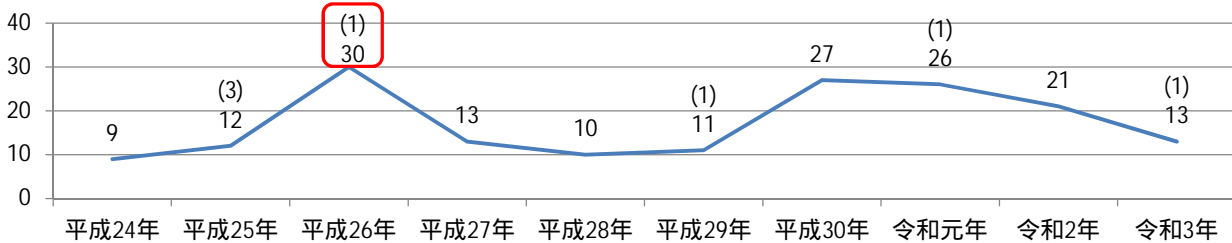
資料出所 労働者死傷病報告による。なお、()内は死亡者数で内数

熱中症による発生件数の推移

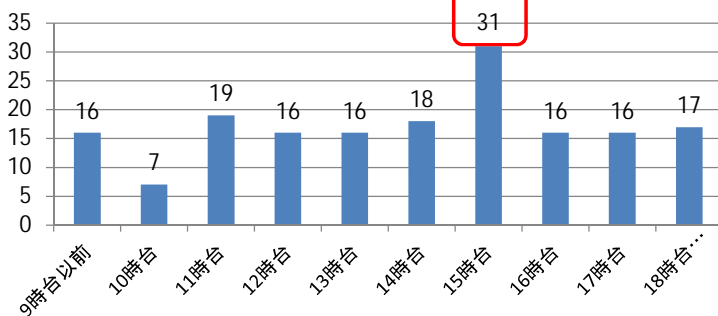
職場での熱中症による死傷者数は、平成24年以降、平成26年の30人が最も多く、業種別では製造業及び建設業の2つの業種で全体の半数を占めています。死亡者数は、平成25年に3人、平成26年、平成29年、令和元年及び令和3年にそれぞれ1人の発生となっております。

特に梅雨明け直後の暑さに慣れるまでの間は、十分に休憩を取りながら徐々に身体を慣らす熱への暑熱順化とともに、その後も暑さ指数(WBGT値)に応じて、作業の中断や短縮などにより熱中症を予防しましょう。

熱中症の発生件数の推移



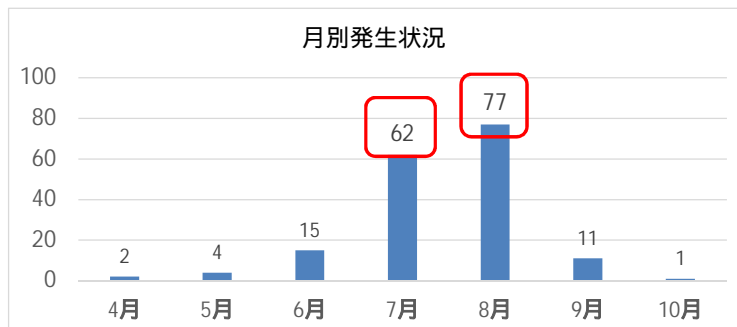
時間帯別発生状況



時間帯別では、ほぼ平均的に発生していますが、特に**15時台に最も多く発生**しています。また、日中の作業終了後に、帰宅してから体調が悪化するケースも散見されますので、体調に異変を感じたらすぐに病院へ行くか、救急車を要請しましょう。



月別発生状況



月別では、**7月と8月に集中**して発生しています。梅雨が明けた後は、気温が上昇し熱中症が発生しやすくなります。